

「ハイデルベルク・ストラスブール派遣 参加報告書」

京都大学文学研究科修士2年 今井康貴

今回のプログラムでは、2015年3月21日～26日にドイツの Heidelberg 及びフランスの Strasbourg に8人の学生が派遣された。内容の重複を防ぐため、本報告書では3月23日午前に Heidelberg 大学内の Karl Jaspers Centre で行われた、同大学のクラスター (Cluster of Excellence “Asia and Europe in a Global Context”)の説明会の内容に焦点を当てる。同プログラムの他の日程については、他の参加者の報告書を参照されたい。

Heidelberg 大学のクラスターは政府主導のプログラムである Excellence Initiative の指定を受けて2007年に開設された。このクラスターは、当初は2011年までの時限的な部署として機能する予定であったが、現在はその成果が評価され、2017年までの助成金の給付が延長されている。

Heidelberg 大学のクラスターは “Asia and Europe in a Global Context” という名称で、その目的は学際的な視点を持って、文化交流の過程を明らかにすることにある。また、クラスターの研究では、ヨーロッパの大学で従来行われてきた研究に関する考えや手法に捉われず、世界各国の様々な文化圏の優秀な学生、研究者を集めることにより、アジアとヨーロッパを単なる「東西」という対立以上のものとして比較することに努めている。音声、映像などの様々な媒体を資料とした研究手法を確立しようとしていることも、このクラスターの特徴であろう。

クラスターに所属する博士課程の学生は、通常 supervisor と mentor が2人ずつ付き、3年間の指導を受ける。また、学生は最大で3年間の奨学金が支給されるなど、財政面での支援も手厚い。1年目は様々なテーマの授業に参加し、2年目にはフィールドワークを行う。3年目には、その結果をもとに論文の執筆や発表に専念する。2年目の終わりには、研究の経過報告をクラスターの委員会に対して行い、その評価によって3年目の奨学金支給の有無が決まるようである。

修士課程の学生は、以下の3つの分野の中から1つを2年間学び、研究することになる: Society, Economy, and Governance; Knowledge, Belief, and Religion; Visual, Media, and Material Culture。修士課程での2年間は4つの学期に分けられる。第1学期は、異文化研究、比較文化研究の主要なテキストを読み、基本的な考えを概観する。第2学期は、自身の研究テーマへの理解を深め、第3学期には、海外で勉強をしつつ、修士論文のための研究を開始することになる。そして、最終学期に修士論文を書き上げるというのが一般的な学生の2年間のようだ。

最後にこのプログラムを通して、海外でのアジア研究がどのように行われているかを初めて知ることができ、とても貴重な経験となった。また、当初の目的は将来、本大学と Heidelberg 大学及びその他の大学との joint degree プログラムの締結を促進させることであったが、説明会を受け、滞在を続けるうちに、自身の留学志向が強まったことは禁じ得ない。何れにしても、今後、両大学を含む複数の大学間での joint degree プログラムが成功することを祈るばかりである。